

# 元戦車中隊長の模型部屋

## 第12回

皆さんこんにちは。いよいよ春がやってきますね。進学や就職に転勤、そして入隊（笑）など、新しいスタートを切る皆様は新生活の準備に忙しいのでは？希望や不安でいっぱいでしょうが、それを乗り越えて、新たな戦場でご活躍されることをお祈りしています。

さて、このコーナーのプラモデルも毎回同じようなものばかりでマンネリ化しているのではと心配になり、私のツイッター（@makeibeya）で意見を聞いたところ「マンネリではない」「面白い」という温かい声ばかりでした。嬉しいですね。その中で「牽引砲を作ってください！」との声があったので、今回はこんなものを作ってみました。



### 「155mm加農砲M2」 （通称：ロングトム）

第2次大戦中に米国陸軍で使用されていた「M59 155mmカノン砲」を、戦後1952年に陸上自衛隊に供与され「155mm加農砲M2」との名称で1996年まで使用されていました。「加農砲って何？」とよく聞かれるのですが、ざっくり言うと大口径の火砲のことで、説明しようとするわけっこう複雑なので、ネットで調べていただくとありがたいです・・・（無責任）



キットはAFVモデルさんのもので、細部の資料がなかったのでストレート組です。陸上自衛隊で使用されていましたが、車体番号や識別マークなどはなかったようなので、陸自仕様といっても塗装色しか工夫していません。昭和の自衛隊のオリーブドラブ色として、私が愛用しているGS1クレオスのブラウンバイオレットで基本塗装してからスミ入れしてウェザリング・・・といういつもの制作過程です。牽引砲なのだから牽引した状態かと思いましたが、やはり火砲は射撃姿勢がカッコイイ！との私好みでこの状態で仕上げました。



砲尾部の状況です。磨き上げられた砲尾栓とススが洗淨油で流れ落ちた薬室を表現。ススで汚れるのは砲口だけではありません。発射装薬のススがオイル状になり、かなり汚れます。

また、隊員が射撃準備時に足で触れるであろう砲脚部に泥を付着させてみました。でも、特科隊員の皆様から見たら違うよ！と言われるかも・・・ごめんなさい。





ものすごく細かい部品で構成されている足回り、細すぎて折れちゃいそうです。タイヤハウスや泥除けがあるわけじゃないので、タイヤ周辺はかなり泥が付着したのではないかと思います。駐屯地にある牽引トレーラーなどのタイヤを参考に塗ってみました。また、いたるところにパステルコンテの様々な茶色を使用して錆を表現しています。



砲口のアップですが、キットの砲身はアルミ製で内部にはライフレリング（砲弾に回転を与えて飛翔を安定させる溝）が表現されています。また、周辺にはススのほか、弾体側面についている銅製の帯が削れて付着し緑錆となります。ほんの少しですが、それを再現してみました。このこだわりが皆さんにも伝わるといいのですが、まさに自己満足の極みです…



左：当時の高射特科装備品の「M42自走高射機関砲」 右：現在の特科装備品「MLRS」です。それぞれの装備品と比較しても、その大きさがわかりますよね。あ、MLRSは現在鋭意作成中です（笑）

15榴 方位角3033  
射角266 4回連続 斉射  
斉射よーい、撃て！



本来ならば特科隊員を配置したいところですが、彼らを作る余裕がなかったもので…その代わりに、隊員目線で撮影してみました（笑）おお！デカイ！火炮はこうでなきゃ！！…っといったところで今回はこれまで。次回もお付き合いくださいね。